

文京学院大学 2016 年度入学式
2016 年 4 月 1 日 東京ドームシティホールにて

学長告辞

文京学院大学平成 28 年度入学の皆さん、ご入学おめでとうございます。

保護者の皆様、またご家族の皆様がたにおかれましてもさぞお喜びのことかと存じます。

本日は大学院研究科ならびに各学部に入學された総勢 1,203 名の新入生のかたがたが一堂に会して、この式典に参列されております。これだけ多くの皆さんをここに迎えられたことは、私どもにとってこの上ない喜びであります。文京学院大学の教職員を代表いたしまして、心より歓迎の意を表します。

皆さんが入學されたこの大学は、今から 93 年前に創立者、島田依史子先生が「島田裁縫伝習所」として開學されたのが始まりで、その後、短期大学、文京女子大学をへて、今日ある大学の姿へと変遷してまいりました。創立当時は女子の自立を目指して教育を始めたこともあり「自立と共生」を教育の理念とされましたが、この理念は時代を超え、国を超えて普遍的なものであるところから今も本学の建学の精神として脈々として受け継がれているのです。

私たちがこの建学の精神を大切であると思っている理由について少し述べたいと思います。

自立とは、精神的にも、経済的にも独り立ちできることを目指すのであり、そのために必要なのは自己形成を図るとともに、経済力をつけるためのスキルをしっかりと身に着けることです。このことは社会のなかで生かせる専門的知識や技術・技能を修得することにほかなりません。

一方、共生とは、概念的にははばひろいものがあり、それだけで一つの学問体系をなしています。皆さんは 1 年次に必修科目とされる「人間共生論」を受講することになると思いますが、その中で改めて共生の意味を深く洞察することになろうかと思えます。ここでは一般的なお話にとどめますが、次のように考えて頂ければよいのではないかと思います。自分の思うとおりにならないことのほうが多い社会ですが、その社会が総体としてそれなりに形を成しているのは、それを支えている人たちが社会の中で共生を実践しているからではないでしょうか。共生の思想がなければ、我欲の衝突で社会秩序は持続できず崩壊してしまう危険が出てきます。相互に相手の立場や気持ちを理解して、譲るべきところは譲り、主張すべきところは主張しあいながら互いに協調しつつ物事を達成していく。そのような関係を尊重する生き方が共生の生き方につながっていると考えてよいでしょう。自立のためにスキルを磨くには「勤勉」でなければなりません。共生するためには相手に対して「誠実」でなければならぬし、「仁愛」の心、即ち他者を思いやる心をもっていなければ共生は実践できません。この「誠実」、「勤勉」、「仁愛」が本学の校訓とされているものなのですが、自立と共生の精神とともに是非これらを皆さんの心に刻んでいただきたいと

思います。皆さんはこれからの社会の担い手になっていくわけですから、ぜひこの建学の精神を生かし、これからの持続可能な平和で豊かな未来社会を実現して欲しいと思います。

今、社会は急速にグローバル化が進んでいます。皆さんが本学を卒業するころには、異人種間、異文化間交流はますます盛んになり、好むと好まざるとにかかわらずこのグローバル社会の中に身を置くことになるでしょう。国境を越えてさまざまな局面で世界とつながるグローバル環境の中に生きているということをしかに知ること、そして国際共通言語と言ってもよい英語でのコミュニケーション力をつけることは、現代においてはもはや避けて通ることはできません。ですから皆さんには在学中に、短期、長期を問わず少なくとも一度は海外留学を体験してきてほしいと思っています。本学には国際交流センターがあり、さまざまな留学プログラムも用意されています。カリキュラムがタイトな学部であっても、夏季休暇、春季休暇を利用しての留学体験ができるはずです。言語や文化の異なる異文化圏でグローバルな体験することは、自立と共生を実践する最も良い機会になるに違いありません。

次に大学の教育について触れておきたいと思います。

大学院に入学された皆さんにあっては、大学院の使命と存在価値を知っていただき、学業、研究に専念していただきたいと思っています。2年間の在学期間中に自らの研究テーマに係る理論科目を履修し専門知識を深めていくとともに、課題とした研究内容をまとめ修士論文としなければなりません。この工程は簡単なものではないと思います。特に社会人として働きながら修士課程で学ばれる院生の方は本当に大変な道のりだと思いますが、これを絶好の機会ととらえて、研鑽をつまれば、ぜひ所期の目標を達成していただきたいと思っています。

大学に入学された皆さんの場合は、まず高等学校の授業と大学の授業の相違を理解していただきたいと思っています。授業時間や講義形態、勉学の方法、成績評価法などの面でいままでは大きく異なりますので、最初の授業で戸惑うことのないようにしてください。

これらに関しては、これから予定されているオリエンテーションや初年次教育のなかで詳しい説明があると思います。大学では比較的自由な時間があるので、課外活動、サークル活動、アルバイトなどに時間を割り当てることができます。このような活動は人間形成にとって重要であります。基本的に大学というところは学士に相応しい学識と技術を身につけるためのアカデミアであることをしっかりと認識しておいてほしいと思います。

学士に相応しい学識と技術というのは、各学部における専門分野を究めるだけでなく、21世紀の市民に適した文化、社会、自然、歴史、倫理などについての広範な知識と理解力を有し、あらゆる側面において論理的思考を以って問題解決を図ることのできる能力のことを意味します。4年間でこれだけの学識を身につけるには時間的に足りないと感じるかもしれません。大学を卒業した学士の人たちには、日本社会のみならず、国際社会からもそれだけの事を期待されているのですから、真剣に学業に専念していただきたいと思っています。

最近の大学における成績評価は昔と比べて格段に厳しくなっています。それは国の教育方針に基づく教育改革が影響しているのです。日本の大学生を国際的レベルで比較しますと、日本の大学生の勉強時間が世界で最低であるといわれており、十分な学士力がないに

もかかわらず、簡単に卒業させてしまうことへの問題が指摘されてきたのです。国際的に通用する学士の学位を授与するために厳しい成績評価が必要とされているのです。本学では国際標準であるGPAによる成績評価を取り入れています。これからの皆さんは受講科目を落とすことのないよう毎回講義に出席して確実に単位を取得して頂く事が必要になります。大学1年の時にこういった大学での学びかたをしっかりと身につけることで、4年間を中途脱落することなく学び続ける事が出来る筈です。どうぞ大学生としての本分を胸にこれからのキャンパスライフを大いに楽しんで頂きたいと思います。

さて皆さんのお手元には会津八一先生の「学規」が配布されていると思います。元学長でありました島田和幸先生は、この「学規」を学生たちにしめされて、機会あるごとに学規に書かれた生き方を繰り返し説いてこられました。この学規に込められた内容は、本学の建学の精神と校訓に通ずるところがあるのです。会津八一先生は、日本の歌人・美術史歌・書家として活躍されたかたですが、早稲田大学文学部教授としても活躍され多くのお弟子さんを育成されました。

皆さんのお手元にある学規は、大正3年に作られたもので、4か条の人生訓を記したものであります。これは当時、彼の家に下宿していた受験生のために作られたものですが、後に彼の門下生に向けて語られた言葉ともなり、また八一自身の生活指針ともなった言葉でもあります。

この4か条の内容をよく読んで深く味わってみてください。皆さん一人ひとりが本学の建学の精神とこの学規を深く理解し、自己の人生の指針とされることを願っています。

最後に皆さんに申し上げたいのは、今後2年間あるいは4年間という期限の中で学位や資格を取得できるよう、教職員全員で在学中の皆さんを支援していきますので、皆さんもがんばってそれぞれがもつ目標を強い意志を以って達成して行ってほしいということです。

ここにいる皆さんが修業年限を終えて、そろって学位記を手にする日を願い、学長の挨拶といたします。

平成28年4月1日

文京学院大学
学長 工藤秀機